

今回は、「ボランティア共生大学」の活動と、「ポジティブな言いかえ」について紹介します。

★ボランティア共生大学★

「ボランティア共生大学」は、地域の方々が、本校の教育活動へご支援、ご参加いただき、互いに学び合い支え合うハートフルな共生社会を目指したボランティア活動を行う団体です。平成10年度からの取組で、今年度で26年目を迎えます。新型コロナウイルス感染症の影響で、しばらく活動ができない状況でしたが、今年度はいよいよ再始動です。運動会や水泳などで、ご協力いただいています。いつも、ありがとうございます！



【水泳】安全のための見守り



【運動会】写真撮影、子どもの見守り、運動会の係（ゴール）



★ポジティブな言いかえ★

子どもへの言葉掛けについて、「ポジティブ変換」としてと伝わりやすいと言われています。私たち大人は、つい「しないで!」「ダメでしょ」など、抽象的で否定的な言葉掛けが多くなっているのではないのでしょうか？今回は「ポジティブな言いかえ」について紹介します。ポイントは、抽象的で否定的な言葉より、具体的で肯定的な言葉は、「分かりやすい、行動しやすい」言葉になるということです。



- ★「早くして!」→「〇〇をしよう!」(具体的にすることを伝える)
- ★「そんなことしないで!」→「何がしたいの?」(大人の視点ではなく、子どもの視点で)
- ★「〇〇しないと、〇〇できないよ!」(W否定)→「〇〇すると、〇〇できるよ!」(肯定的に目標を示す)
- ★「ダメ!」→「〇〇すると危ないので、〇〇してほしい!」(理由もセットにして)
- ★「〇〇しなさい!」→「私は〇〇してほしい!〇〇してくれたらうれしい!」(アイ(I)メッセージで)
- ★「いけないことでしょ!」→「いけないことって、分かっているよね」(行動は否定するが、本人は肯定する)

参考書籍

- ◎「よけいなひと言をわかりあえるセリフに変える親子のための言いかえ図鑑」大野萌子
- ◎「発達障害の子どもたちから教わった35のチェンジスキル」阿部利彦
- ◎「子育てベスト100」加藤紀子
- ◎「ファンタジーマネジメント“生きづらさ”を和らげる対話術」小栗正幸

大人が変われば、子どもたちもきっと変わっていきます！これからも、特別な配慮が必要な子どもたちへのかかわり方について、日常的にできることをお知らせできたらと思っています。